

県立学校における「地域と共にある学校づくり」実践発表会 実施報告

| | | | |
|----------|--------------------------|----------------------------------------------------------------|--|
| 1 日時 | 平成27年2月3日(火) 14:00~16:00 | | |
| 2 会場 | 奈良県立教育研究所(磯城郡田原本町秦庄22-1) | | |
| 3 参加者 | 41人(高等学校32人、特別支援学校9人) | | |
| 4 内容 | 14:00~14:10 | 開会挨拶 | |
| | 14:10~15:00 | 実践報告① 県立大宇陀高等学校 教諭 出口千恵美 実践報告② 県立奈良西養護学校 校長 藤田和義 教諭 谷村祥晃 | |
| 5 実践報告概要 | 15:00~16:15 | 助言者による講評及び講演 「高校生の社会参画、地域貢献とシティズンシップ教育」 京都教育大学 教授 水山光春 | |
| | 16:15~16:20 | 閉会 | |



5 実践報告概要

●報告① 「宇陀の阿騎野の未来に向けて、地域と絆を深める大宇陀高校」

県立大宇陀高等学校 教諭 出口千恵美

- ・「学校が関わることで地域が活性化すること」「学校外の活動により生徒が育つこと」を目指した取組についての発表。
- ・学校と地域との協働を推進するために、「総合的な学習」「ライフクリエイティブコースの授業」「各行事」「ボランティア活動」の4つの活動を柱とし、担当教員を明確にして、全教員の共通理解のもと計画を実施。
- ・近隣の施設(うだ・アニマルパーク、大宇陀幼稚園、特別養護老人ホーム)や組織(地元自治会、小学校、中学校)との双方向の交流を重視した取組を展開することにより、生徒の課題であったコミュニケーション力が伸長し、多様な経験や地域の方々との交流により自己有用感も育成された。
- ・今後は、取組を継続しさらに充実を図るため、担当者の業務をどのように引き継ぐかが課題である。



●報告② 「地域ふれあい文化交流会への参加を通じた取組」

県立奈良西養護学校 校長 藤田和義
教諭 谷村祥晃

- ・共生社会の在り方を考える福祉モデル地域を目指し、地元自治会連合会、地域の小・中学校、大学と連携して取り組む「地域ふれあい文化交流会(以下、交流会)」等の取組についての発表。
- ・かねてから校内において、生徒が地域の人々とふれあいながら地域における学校への理解を広めることの必要性を検討。第3回「交流会」の会場が奈良西養護学校体育館となったことを契機に、高等部の生徒が参加。以来、毎年参加し、生徒は舞台発表や販売活動を通じて地域の方々とのふれあい、よい経験を重ね、達成感を味わっている。
- ・ほとんどの生徒がバス通学で地域住民とふれあう機会が少ないため、地域の学校・幼稚園等や地域団体との結びつきを強める新しい取組を進めている。今後も活動を継続し、生徒たちに自信をつけるとともに、地域住民の生徒たちへの理解をより深めていきたい。



6 講評・講演

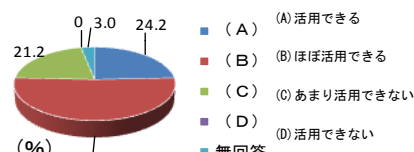
「高校生の社会参画、地域貢献とシティズンシップ教育」 京都教育大学 教授 水山光春

- ・両校の取組は、学校と地域の双方向から取り組んでおり、そうすることで持続可能な取組となっているところが素晴らしい。また、生徒の作った作品を売る、提供する、相手の反応を見るなど、需要と供給の関係を体験できる企業的な要素を取り入れた取組も注目すべきところである。
- ・「地域(コミュニティ)」には、ローカル(地元)、ナショナル、グローバルという3段階の意味がある。それぞれの学校の財産(強み)を活かした取組からスタートし、グローバルな取組へと発展させていく方向もある。
- ・シティズンシップ教育が目指す方向性は、「任せて文句を言う社会」を「引き受けて責任を持つ社会」へと変えていくことである。生徒の社会参画をサポートしてくれる団体等とも連携し、積極的に学びの機会を作り出し、取組を進めていくことが大切である。また、これからの教育で身に付けなければならない能力は、協働して課題を解決していく力である。



7 感想

- ・一教員ではなく、役割分担するというのもとても大切だと思う。
- ・双方向でWIN-WINの関係が、継続した取組とするために必要なことが分かった。
- ・本校でも取り入れることがあるのではないかなと思う。子どもたちが自信を持って生活できる環境作りが大切だと感じた。
- ・多くの学校で、特定生徒のみが関わっている状況が多い中で、発表いただいた両校では、多くの生徒が関わっていることに関心をもった。より多くの生徒に地域との関わりをどのように持たせるかが今後の課題である。
- ・地域住民への情報発信のために行っている活動が、生徒の成功体験にもつながることを気付かせてくれた。



本日の研修の内容は、今後の活動に活用できるものでしたか。